

2026 年度 一般社団法人 日本臨床検査専門医会 定時社員総会議事録

開催日時：2026 年 5 月 24 日（日）11 時 30 分～12 時 00 分
開催会場：千葉大学墨田サテライトキャンパス 3F（第一会場）

<総会の成立>

司会者である村上庶務担当常任理事より、現地参加者 42 名および委任状 232 通をもって、定款第 3 章 17 条の定める定足数を満たしたため本会の成立が報告され開会が宣言された。定款同 15 条により、議長は山田理事長が務めることとなった。

<審議事項>

第一号議案 議事録署名人の選任

定款第 18 条第 2 項による議事録署名人の選任につき、議長が次の 2 名を提案し議場に諮ったところ、満場異議なく、次の通り選任された。

議事録署名人 松下 一之 先生
同 諏訪部 章 先生

第二号議案 2025 年度決算の承認（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日分）

増田会計担当常任理事より、資料に基づき、まず正味財産計算書について説明があった。

2025 年度の会費収入は前年に比べ 23 万円の減収となっている。広告収入は主に LabCP の広告収入であり、予算よりは低いものの前年比では増収となった。教育セミナー収入はほぼ前年通りであった。年次大会収入は予算を下回ったが、経費も低く抑えられたため、最終的には黒字となった。収入合計は予算に比べ、約 158 万円少ない結果となった。

次に、支出、庶務経費について、事務所維持費は家賃の値上げ等により、前年度実績に比べ増額となった。通信費については、総会資料の電子提供や会費請求の電子化などにより、前年度実績に比べ減少している。事業経費について、印刷費は、JACLaPNEWS の電子化により減少した分はあるが、LabCP の印刷費が高騰しているため前年度を上回った。年次大会費は予算を大幅に下回ったが、収入も低くなっていたため、年次大会に関しては約 19 万円の黒字であった。会議費は前年度実績に比べ 34 万円の増加となった。主な理由としては、昨年日本臨床検査医学会学術集会において初めてランチョンセミナーを実施したことが挙げられる。原稿料については、LabCP の非会員原稿の件数が増加したことにより、前年度実績を大きく上回った。結果として、当期正味財産増減額は 1,130,467 円の赤字となった。主な理由として臨床検査振興セミナーの開催費用、非会員原稿料、会議費が前年度を上回ったことがあげられる。増田会計担当常任理事より、前年に比べると赤字幅は減少しているものの、赤字が継続しないよう、今後はより一層の支出削減に努めたい旨の報告があった。

貸借対照表については、主に、資料の中の未収金等についての説明があった。

続いて、菊池監事より添付の監査報告書に基づき、令和 8 年 4 月 22 日に日本臨床検査専門医会事務局において、ベ谷監事とともに、村上庶務担当常任理事、増田会計担当常任理事同席のもと事業報告および決算報告について、定款 38 条通りに監査を行った旨の報告があった。事業報告については、特に問題がないことを確認した。決算報告については、帳簿、証票類、通帳等を突き合せたうえで確認をしたが、こちらも適正に行われていることを確認した。

この後、議長が決算の承認について議場に諮ったところ、満場異議なく承認された。

<報告事項>

1.2025 年度事業報告（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日分）

村上庶務担当常任理事より、資料に基づき報告があった。

会員数の報告に続き、刊行物の発行、計 7 回の理事会、2 回の社員総会等会議開催、その他委員会活動について報告があった。

昨年度は役員交代の年であったため、交代後は新体制で行った。また、第4回年次大会(現地+オンデマンド配信)、教育セミナー・受講者と合格者の集い(いずれもWeb開催)・臨床検査振興セミナー、臨時社員総会講演会・共催シンポジウム(臨床検査医学会学術集会時)を計画通り行ったほか、初めての試みとして、共催ランチョンセミナーを実施した。その他、「こども霞が関見学デー」、「臨床検査の日」広報活動、「臨床検査セミナー」などを共催したほか、JACLaS EXPO 共同出展、令和8年度診療報酬改定に関する活動を関連学会と協力して行った旨の報告があった。

2.2026年度予算案の報告

増田会計担当常任理事より、資料に基づき報告があった。

会員収入は例年通りとし、広告収入は実際の申し込みに基づき計上した。年次大会の収入については、第5回年次大会予算をベースに計上している。支出について、庶務経費の人情費は、事務局職員の時給を都内平均に倣い見直したこと、またテレワーク実施における交通費減額などを考慮して予算を策定した。通信費は前年度の実績に倣い増額した。事業経費について、印刷費はJACLaPNEWSの電子化分を減額した。その他はほぼ、前年度に近い数字で予算建てしている。全般として、前年度より約80万円の予算増加となった旨の報告があった。

3. 2026年度事業計画の報告

村上庶務担当常任理事より、資料に基づき、2026年度の各種会議、第5回年次大会、社員総会、第43回臨床検査振興セミナーの開催、ならびに「こども霞が関見学デー」、「臨床検査の日」広報活動、「臨床検査セミナー」、全国「検査と健康展」の共催などの予定について報告があった。また、12月の日本臨床検査医学会学術集会時には、総会講演会や共催シンポジウムを予定しているほか、2027-2028年度の役員選挙を予定している旨の報告があった。

4. 各種委員会報告(2023年度、前回社員総会以降の活動報告)

1) 情報・出版委員会(金子委員長)

刊行物全般を担当しているが、昨年度よりLabCPの刊行に注力している。直近に発行した44巻2号は、前回の第4回年次大会の特集号とした。今回の年次大会も記録としてLabCPに残し、会員と情報共有を図りたいため、演者の先生方にはぜひご寄稿いただきたい旨、また、定期的な刊行により広告収入も確保していきたい旨が述べられた。

2) 教育研修委員会(鯉淵委員長)

教育セミナー、受講者と合格者の集い、学術集会における共催ランチョンセミナーの開催、臨床検査セミナーの共催を行ってきた。委員会委員以外の多くの先生方からも協力を得ており、この場を借りて御礼を申し上げたい旨が述べられた。

3) 資格審査・規定改定委員会(田部委員長)

2026年度に入り、新たに22名の入会審査を行い、理事長へ承認を依頼した。ほぼ全員が教育セミナーに関連して入会されている旨の報告があった。

4) 渉外委員会(伊藤委員長)

昨年度の全国「検査と健康展」は、多くの先生方の協力のもと無事終了した。また、今年7月31日開催予定の臨床検査振興セミナーについて概要を説明した。診療報酬改定に関する講演および共通講習単位の取得可能な講演を企画しているため、会員の皆様には奮ってご参加いただきたい旨の要望があった。

5) 保険点数・データシステム委員会(松下委員長)

まもなく、令和8年度診療報酬改定が実施されるに伴い、多くの案件を取りまとめた。今後も委員会として新しい情報をキャッチアップし、令和10年度診療報酬改定に備えたい旨が述べられた。

6) 広報ネットワーク運営委員会(山口委員長)

今年も例年通り、「こども霞が関見学デー」に医師を派遣する。また、例年11月に行っている企業と共催している広報活動を予定している。さらに、InstagramやXでの広報活動をはじめ、今回の年次大会に関する情報も掲載している旨の報告があった。

5.第3回医学生・研修生のための臨床検査セミナーの共催について

本会が共催する「臨床検査セミナー」について、日本臨床検査医学会ワークライフバランス委員会の西川委員長より、今年度の開催概要について説明があった。本総会に参加されている先生方の自施設ならびに周囲の対象該当者へ、広く声をかけていただきたいとの協力依頼があった。

その他

2027年度の年次大会について、大会長を務める伊藤弘康先生より、ウイंक愛知での開催を計画している旨の報告があった。

山田理事長より、日本臨床検査専門医会は今後も、臨床検査専門医のサポート、臨床検査専門医数を増やすことを最大のミッションとしており、特に、専攻医の方を全力でサポートしたいと考えている旨の挨拶があった。今回の年次大会では、松下大会長のご厚意のもと、初の試みとして「専攻医支援企画」の開催が実現したため、今後も会員の先生方の協力を仰ぎたい旨が述べられた。

〈閉会〉

すべての審議、および報告が滞りなく終了したため、閉会が告げられた。

議事録署名人

2026年 7月 10日

山田 俊幸

2026年 8月 13日

松下 一之

2026年 8月 25日

諏訪部 章
